

校3年生を対象として、全国
学力・学習状況調査(通称・全
国学力テスト)が行われてい
ます。

この調査は、児童生徒の学
力を客観的に把握する教科に
ついての調査だけではなく、
生活習慣や学習環境などに
ついての調査を行うことで、現
代の子どもたちの置かれた状
況の一端を明らかにすること
も目的としています。

20年度に行われた調査結果
を詳細に分析・比較したとこ
ろ、市内の子どもたちの生活
習慣や学習環境が次第に見え
てきました。

学習時間が全国より 短い子どもが多数

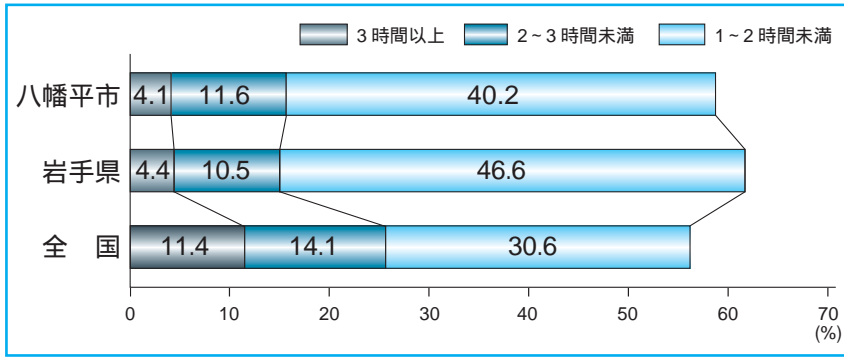
左ページのグラフは、小学校6
年生と中学校3年生の平日、
土日における学校以外での勉
強時間を示したものです。

これによると、八幡平市の
児童生徒は、全国に比べて、平
日、土日ともに勉強時間が短
い傾向にあります。都市部な
どと比較して、塾通いの比率
が低いことの影響も考えられ
ますが、平日に3時間以上、土
日に4時間以上勉強している

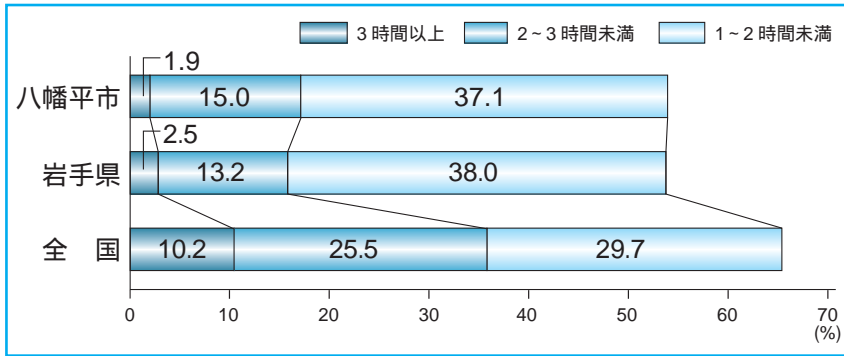


してまますか？

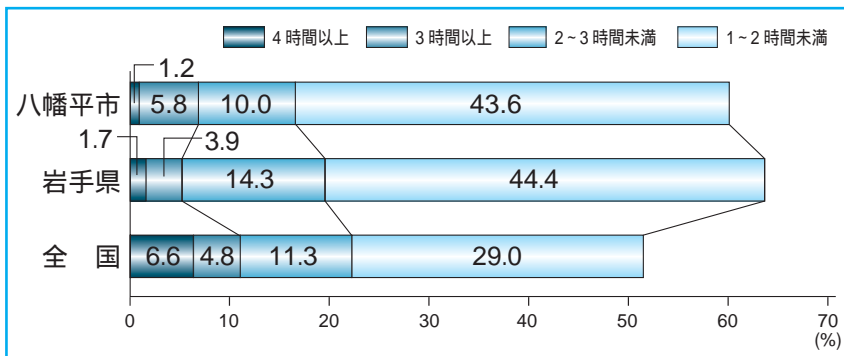
●グラフ1 平日の勉強時間(小学校6年生)



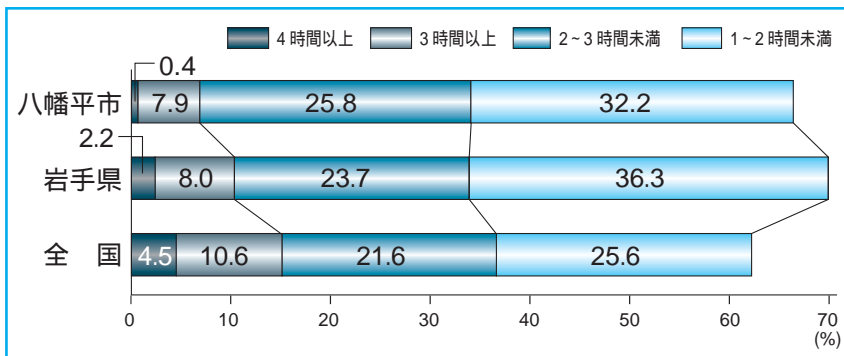
●グラフ2 平日の勉強時間(中学校3年生)



●グラフ3 土日の勉強時間(小学校6年生)



●グラフ4 土日の勉強時間(中学校3年生)



児童生徒の割合は、県平均よりも低い傾向で、全国と比較すると半分以下になっています。土日に関しては、勉強している児童生徒の比率は全国よりも多い調査結果を示していますが、勉強時間は1~2時間未満がほとんどで、時間的には短い傾向が強くなっているといえます。



基礎学力を
身に付ける

家庭学習

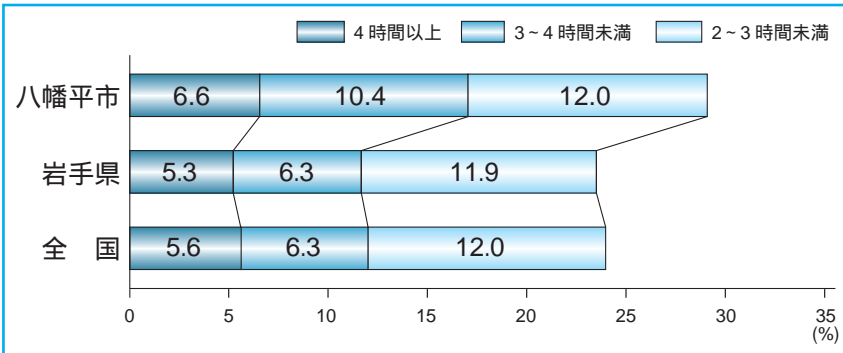


小学6年生の3割が2時間以上ゲーム

下のグラフ5に示されている結果から、市内の小学6年生のうち、実に29割が平日に2時間以上テレビゲームで遊んでいることが明らかにになりました。

県内と全国の平均の比較では、ほとんど差がない状況ですが、市内の児童を調査した結果は、やや突出していると考えられます。特に、3時間以上テレビゲームをしている児童の比率は、市が県内や全国のほぼ1.5倍という実態が示されています。

●グラフ5 平日のテレビゲーム時間(小学校6年生)



高学年ほどテレビを見る傾向に

こうした結果から、それぞれの家庭で、一日のうちにテレビゲームで遊んで良い時間がある限り決められていないといったことが原因として考えられます。

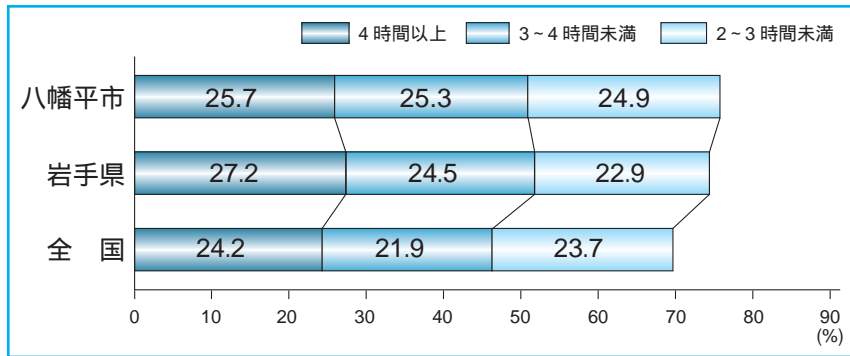
下に掲げたグラフ6・7は、それぞれ児童生徒の平日におけるテレビやビデオ、DVD



などを視聴している時間についての調査結果をまとめたものです。これによると、小学校6年生、中学校3年生ともに県内や全国の平均よりも長い時間をテレビの前で過ごしていることが分かります。また、県内および全国の平均では、平日にテレビを2時間以上見ている児童生徒の比率が、中学校3年生になると減少するのに対して、市内では逆に6割増加し、全国平均との差が、6.1割から15.7割までに拡大しています。

特に中学生では、平日に4時間以上テレビを見ている層が全体の33割もあり、こうしたテレビなどの視聴時間の長さが、家庭学習の時間を少なくなっている原因の一つとなることが推測されます。

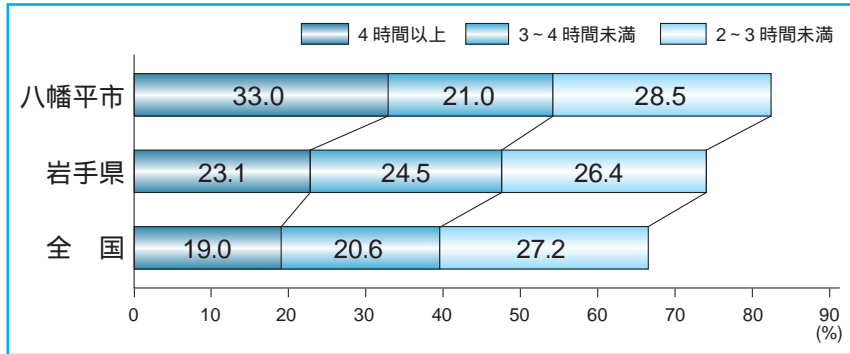
●グラフ6 平日のテレビなど視聴時間(小学校6年生)



宿題以外の計画的な学習は苦手

一方で、このほかの調査項目を見てみると、全国や県と比べて、宿題をきちんとしていない児童生徒の割合は高いという結果が出ています。特に小学校6年生では、9割以上の児童が宿題をきちんとやっていると答えています。また、中学校3年生においても、

●グラフ7 平日のテレビなど視聴時間(中学校3年生)



「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は、全体の9割近くに達しています。また、自分で計画を立てて勉強することについては、小学校6年生では全国や県に比べてほとんど変わりありませんが、中学校3年生になると、全国や岩手県に比べて、かなり低くなる傾向を示しています。



■各小学校の家庭学習への取り組み例

大 更	学習時間(学年×10分)、音読
東大更	教科学習の予習復習、日記、音読、読書
渋 川	音読ノート、家庭学習点検、土日読書
田 頭	学習環境整備・親子読書、ノート指導
平 笠	学習時間(学年×10分+10分)、学習手引き
平 舘	学年に応じた学習内容、小テスト実施
寺 田	音読、プリント、ドリル、自学、チェックカード
松 野	計画と自己評価、ノート指導、表彰
寄 木	学習の手引き活用、朝読書、10分テスト
柏 台	授業との連携、ノート指導、ノート展示会
安 代	学習サイクルの定着、宿題と自主学习
田 山	家庭学習カード、保護者コメント、評価

子どもたちに 家庭学習を習慣付け

こうした調査結果をもとに市教育委員会は、子どもたちに「学習すること」が生活の一部として習慣付けられるよう、さまざまな取り組みを行っています。

各学校で、それぞれ学力向上に向けた取り組みを行っており、その一環として家庭学習の指導にも力を入れています。

各学校で重点項目を決めて、学年に応じた家庭学習の指導や児童が自ら学習したいと思

うよう、取り組ませ方などに工夫を凝らしています。学校では、子どもたちが宿題以外にも日常的に目的意識を持って学習を行い、自己評価できるようにすることを目指します。

また、市は6・11月を「家庭学習推進月間」と位置付け、家庭学習の定着に向け、取り組みを強化しています。

身近な取り組みから 始めましょう

こうした学校での取り組みに加えて、家庭学習を習慣付けるには、何よりも各家庭での取り組みが重要です。

すでに示した調査結果などを見ても、八幡平市の子どもたちは、テレビやゲームの時

間が長い傾向にあります。それぞれで、テレビを消して一緒に読書をしたり、テレビや勉強の時間を決めるなどのルールづくりをすることが求められます。

また、家庭で勉強をする場所が決まられていない例も見受けられることから、場所を確保することも大切です。子どもの学習を見守るとともに、簡単な確認をしてあげるようにしましょう。

子どもの学力向上には、学校と家庭が連携して家庭学習に取り組むことが欠かせません。家族の協力で家庭学習を習慣付けることが大切です。

詳しくは、市教育委員会事務局学校教育課 ☎74-2111、内線2317まで。

家庭の取り組み4カ条

- テレビを消す時間を決めて、一緒に読書
- 家庭学習の時間を設定
- 勉強場所の確保
- 学習の見守りと子どもへの声掛け、簡単な確認